

3年4組 音楽科学習指導案

指導者 木村 仁美

- 1 題材名 おはやしをつくろう
教材名 鑑賞「ねぶた囃子」音楽づくり「せんりつづくり」

2 題材について

《 学習指導要領とのかかわり 》

- A 表現 (2) エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。
(3) イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。

- B 鑑賞 (1) イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

- [共通事項] (1) ア (ア) 音色 リズム 拍の流れ 旋律 音の重なり 速度 フレーズ
イ (イ) 問と答え、反復

(1) 題材観

「音楽づくり」とは、児童が自らの感性や創造性を発揮しながら自分にとって価値のある音や音楽をつくることである。この活動にあたって、児童が自分の考えや願い、「このような音楽にしよう」という意図をもち、その実現に向けて試行錯誤しながら創意工夫する活動を楽しむことができるようにしたい。そのために、旋律づくりの経験があまりない児童でも取り組みやすいように、リズムは固定にし、ラ・ド・レの音をどのように組み合わせるかに重点を置いてせんりつづくりを行っていく（実態に応じて、リズムをつくることのできる児童はリズムもつくって良い）。最後には、皆のお囃子をつないで3年4組オリジナルのお囃子をつくるという大きな目標を掲げ、意欲化を図る。

(2) 児童の実態（男子18名、女子13名、計31名）

これまで児童は、拍の流れに合わせて、お題に合った単語を1人ずつ言ったり、手や楽器を使ってリズム打ちのリレーをしたりと、リズムあそびを楽しむ活動を経験してきている。しかし、技能の差が大きく、拍に合わせて、リズムを同じように叩くことができない児童が6名ほどいる。また、旋律づくりはあまり経験がないが、音の選択肢があれば、ほとんどの子が音を選んで、旋律をつくることのできるものが「海風きって」（教科書p. 11）の学習でわかった。そのうち、5名は、意欲的に2つ以上の旋律をつくっていた。リコーダーの学習は始めたばかりであり、約2週間前に、ソ・ラ・シ・ド・レまでの運指を学習した。音の高さに従ってソから順番に上がったり、レから順番に下がったりすることは出来ても、それらが入れ替わると、混乱し、運指が十分にできていない児童がまだ多くいる（4分の1…できる 4分の2…少し練習時間を作ればできる 4分の1…マンツーマンで教えないと難しい）。タンギングについても、十分とは言えず、全体的にリコーダーに親しんで演奏する段階には至っていない。

控えめな児童が多く、自分の考えや思いをもっていても表現する発言が少ない。また、指示や話をきちんと聞くことが苦手な児童や、集中できる時間が短い児童も数名いる。

(3) 指導観

本題材では、お囃子に親しみ、拍の流れにのって拍子を感じ取りながら、ラ、ド、レの3つの音を組み合わせたお囃子の旋律と、それに合った太鼓のリズム伴奏を自分たちの思いや意図をもって作り、演奏することをねらいとしている。この活動を通して、音楽と主体的・創造的にかかわり、友達とコミュニケーションを図りながら、「自分たちのお囃子」をつくる楽しさや一体感を味わわせたいと考える。

「ねぶた囃子（青森県）」は、篠笛、太鼓、手振り鉦の3つの楽器で演奏されている。他のお囃子に比べ、篠笛の旋律や、太鼓のリズム、これらの重なりがわかりやすく、お囃子の雰囲気も感じやすいと考え、鑑賞教材として本教材を選んだ。お囃子の雰囲気を味わうとともに、お囃子を演奏する笛や太鼓に注目させることで、これから自分たちでお囃子をリコーダーと太鼓でつくっていくという導入を図る。また、比較的速度の遅い「姥神大神宮渡御祭の音楽（北海道）」と聴き比べることで、「ねぶた囃子（青森県）」ののりの良い速度にも気付かせる。

旋律づくりの際には、リコーダーで試しながら2小節のお囃子の旋律をつくる（ラ・ド・レは、3音でお囃子の雰囲気の旋律をつくることができるだけでなく、今の児童の実態でも取り組みやすい音である）。ワークシートを用意し、「せんりつをつくるリズム」をもとに、ラ・ド・レの3音のみをあてはめて旋律をつくりやすいようにすること、それらのリズムを3パターン用意しておき、児童が自分のペースで取り組むことができるようにすること、一般的な音符を書く記譜ではなく、カタカナを選んで○に当てはめるだけにする、運指の確認をしながらいねいに進めていくことで、行き詰まりがちな児童も楽しんで活動に主体的に取り組むことができるようにする。

旋律に合った太鼓のリズムをつくり、拍の流れにのって、つくった旋律やリズムを演奏する際には、5年生が運動会のエイサーの踊りで使用した太鼓を1人1つずつ借りて、太鼓を演奏することで、楽器や演奏することへ意欲を高めたい。また、活動の際には、まず少人数のグループで発表し合う時間をとることで、控え目な児童も自分の意図や思いを表現しやすい環境をつくる。

今年度から学習が始まったリコーダーについても、自分たちでつくったお囃子を演奏することで、「もっと色々な曲を演奏できるようになりたい。」という意欲が高まることを期待し、本題材を設定した。

3 題材の目標

- ・お囃子に使われている楽器の音色や雰囲気や特徴を感じ取り、お囃子の音楽に親しむようにする。
- ・ラ・ド・レの3つの音を使って、お囃子の旋律をつくる。
- ・拍の流れにのって、拍子を感じ取りながらリコーダーと太鼓で演奏できるようにする。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
ラドレの3つの音でお囃子の旋律をつくることに興味・関心をもち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。（音楽づくり①）	音色、リズム、速度、旋律、音の重なり、拍の流れやフレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、ラドレの3つの音で旋律をつくるための試行錯誤をして、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや願い、意図をもっている。（音楽づくり②）	つくった旋律や太鼓のリズム伴奏を拍の流れにのってリコーダーや太鼓で演奏している（音楽づくり③）	「ねぶた囃子」に使われている様々な楽器の音色、リズム、速度、旋律、音の重なり、拍の流れ、フレーズやそれらの関わり合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている。（鑑賞①）

5 研究の視点について

【視点2】 思いや意図をもって表現したり、聴いたりする力の育成（のための手法）

お囃子の旋律をつくるにあたり、まず「ねぶた囃子」の鑑賞から入ることで、お囃子の雰囲気や日本の音楽のよさを掴ませる。その後、「あえて1音（2音）でつくってみたよ。」「3音すべて使ったほうがバラエティに富むよ。」「音が上がって（下がって）いくようにしたよ。」「リコーダーで吹きやすい指使いにこだわったよ。」など、自分の思いや意図をもって自分の旋律づくりに取り組みやすいように、以前、旋律づくりをした時（「海風きって」教科書p. 11）と同様の、○に選んだ音をカタカナで入れるワークシートを使用する。○の下を音をつないでいくと、音の高低や音の上がっていく（下がっていく）様子がわかりやすくなっている。また、お互いの旋律をつなげる際には、1人2小節のお囃子を何人かでつなげただけで、よりお囃子の雰囲気が出る面白さに気付かせ、クラスのお囃子をつくる意欲をもたせる。「前の人から続くような感じにしたよ。」「ドで終わるとまだ続く感じがする。」など、順番を工夫し意図をもたせることで、よりまとまりのある「クラスのお囃子」をつくることができるように指導していく。また、出来たものを紹介し合う際、全体共有の前にグループでの共有時間を入れることで、控え目な子でも、活躍できる場、自分の意見を言いやすい環境をつくり、思いや意図の表現をしやすくしたい。

6 題材の指導計画（4時間計画）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準 〈評価方法〉
1 次		ねらい 音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、「ねぶた囃子」を聴く。	
	1	○お囃子の雰囲気や特徴をつかむ。 ・「ねぶた囃子」を聴いて、篠笛、太鼓、手振り鉦が使われていること、それらの重なりなど気付いたことを話し合う。「姥神大神宮渡御祭の音楽（北海道）」と聴き比べることで、速度の違いについて考える。	「ねぶた囃子」に使われている様々な楽器の音色、リズム、速度、旋律、音の重なり、拍の流れ、フレーズやそれらの関わり合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている（鑑賞の能力）
2 次		ねらい お囃子をつくって演奏する。	
	2 (本時)	○お囃子の旋律をつくる。 ・ラ・ド・レの音を組み合わせ、リコーダーで試しながら2小節の旋律づくりをする。 ○お互いの旋律をつなげる際に、まとまりの出るしっくりくる順番があることに気付く。	ラドレの3つの音でおはしりの旋律をつくることに興味・関心を持ち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。（音楽への関心・意欲・態度）
	3	○旋律をつなげる順番を考える。 ・1人で2つの旋律をつなげる（4小節） ・4人の旋律をつなげる（4小節×4）。 ○拍の流れにのって、切れ目なく演奏できるようにする。 ○全グループの旋律をつなげ、「クラスのお囃子」をリコーダーで演奏する。 ・自分たちのイメージに合う速度を見つける。 ・録音をして、自分たちの演奏を聴く。	音色、リズム、速度、旋律、音の重なり、拍の流れやフレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、ラドレの3つの音で旋律をつくるための試行錯誤をして、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや願い、意図をもっている。（音楽表現の創意工夫）

4	<p>○リズム伴奏をつくり、「クラスのお囃子」を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太鼓のリズム伴奏をつくる。 ・旋律とリズム伴奏を合わせて楽しんで演奏する。 	<p>つくった旋律や太鼓のリズム伴奏を拍の流れによってリコーダーや太鼓で演奏している。（音楽表現の技能）</p>
---	--	--

7 本時の学習 (2 / 4)

(1) 本時の目標

- ・音の組み合わせを工夫し、思いや意図をもってお囃子の旋律をつくることができるようにする。

(2) 展開

学習内容と学習活動	教師のかかわり
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">ラ・ド・レを使って、おはやしのせんりつをつくろう。</div>	<p>○ラ・ド・レの3つの音を使い、リコーダーで範奏する。</p>
<p>2 拍の流れによって、ラ・ド・レの3つの音をリコーダーで自由にふく。</p> <p>3 旋律をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><せんりつをつくる時のやくそく></p> <p>①ラ・ド・レの3音のみ使う。</p> <p>②「せんりつをつくるリズム」に音を当てはめる。</p> <p>③リコーダーでふけるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーで試しながら、出来るだけたくさんの旋律をつくる。 ・つくった旋律の中から自分のお気に入りの旋律を1つみつけ、拍によってリコーダーで演奏できるようにする。 	<p>○実態に合わせて、運指等確認してまわる。</p> <p>○ラ・ド・レの3音だけで、お囃子の雰囲気が出ることを感じさせる。</p> <p>○例を見せて、旋律をつくる際のやり方や記入の仕方を掴ませる。</p> <p>○「せんりつをつくるリズム1」を、リズム打ちして確認することで、リズムの読み取りが苦手な子も、スムーズに旋律づくりに入れるようにする。</p> <p>○2小節を1セットとし、「せんりつをつくるリズム」を3パターン用意しておく。途中で、他にもリズムパターンが用意してあることを知らせる。リズム1が終わったら、次のリズムのワークシートを取りに行き、児童が自分のペースでせんりつづくりに取り組むことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ラ・ド・レの3つの音でおはやしの旋律をつくることに興味・関心をもち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。（音楽への関心・意欲・態度）</p> <p><活動観察・ワークシート></p> </div>
<p>4 つくった旋律を紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ→全体で聴き合い、良さや工夫に気付く。 ・お互いの旋律をつなげて演奏できる4人をとり上げ4人の旋律をつなげたものを聴く。 	<p>○3音だけでも、たくさんの旋律をつくることや、友だちの旋律の良さや工夫、つなげるとさらにお囃子の雰囲気が増すことに気付かせる。</p> <p>○4人が演奏する順番を変えた場合を聴き比べ、お互いの旋律をつなげる際に、まとまりの出るしっくりくる順番があることに気付かせる。</p>
<p>5 今後の見通しをもつ。</p>	<p>○次回は、順番を工夫して旋律をつなげ、「クラスのお囃子」をつくる活動をすることを伝え、意欲をもたせる。</p>

